

インターセックス・ファクトシート

「インターセックス」とは

インターセックスの人々は、男性または女性という典型的な身体の二分性に合致しない性的特徴(性器、性腺、染色体パターンなど)を持って生まれます。

インターセックスは、自然な身体の幅広いバリエーションを表すアンブレラ・タームです。出生時に判明する場合もあれば、思春期まで分からない場合もあります。染色体によるインターセックスの場合、身体的な違いが全く表れないバリエーションもあります。

専門家によると、世界人口の0.05%~1.7%がインターセックスの特徴を持って生まれてくるとされており、1.7%は赤毛の人の数に近い割合です。

インターセックスは生物学的な性的特徴に関連するもので、個人の性的指向やジェンダー・アイデンティティとは異なります。インターセックス当事者は異性愛者、ゲイ、レズビアン、バイセクシュアル、またはアセクシュアルなど人により様々で、女性、男性、両性や無性など様々なアイデンティティを持ち得ます。

インターセックスの子どもや大人は、体がまわりと違うという理由からスティグマを与えられ、度重なる人権侵害、健康侵害、拷問や虐待を受け、差別にも晒されます。

身体的不可侵性

身体の外見を二分的なステレオタイプに一致させようとする目的で、インターセックスの子どもたちに対する不必要な手術やその他の処置が一般的に行われています。

これらの処置の多くは不可逆的であり、永続的な不妊、痛み、性的感覚の喪失、うつ病を含む生涯にわたる精神的苦痛などを引き起こす可能性があります。これらの処置は、当事者が意思決定に関与

できないほど幼いなど、当事者の完全かつ自由なインフォームド・コンセントなしに定期的に行われており、身体的不可侵権、拷問や虐待を受けない権利、有害な慣習から解放されて生きる権利を侵害する可能性があります。

このような処置は、インターセックスそのものに関してやインターセックス当事者を社会へ統合させるための文化的規範やジェンダー規範、差別的信念に基づいて正当化されます。

強制的な治療や身体的不可侵性に対する権利の侵害を含む人権侵害は決して正当化されるべきではありません。各国家は、有害な固定観念や差別を強化するのではなく、これらに対抗する義務があります。このような処置は、時には健康上の利点があるとして正当化されることもありますが、根拠が不十分であることが多く、身体的不可侵性を護り自律性を尊重するような代替案が議論されることもありません。

残念ながら、このような信念や社会的圧力は、医師だけでなくインターセックスの子どもの親にも影響し、医学的兆候や必要性、緊急性がないにもかかわらず、また、そのような処置が人権を侵害する可能性があるにもかかわらず、その処置を奨励したり同意したりすることがあります。これらの手術に対する同意は、該当の手術の短期的および長期的な影響に関する情報がなく、成人のインターセックス当事者とその家族など支援者との接触もできないまま、なされることも多いのです。

幼少時にこのような手術を受けた成人のインターセックス当事者の多くは、インターセックスの特徴を消そうと試みられたことによる恥辱とスティグマ、そして大規模で痛みを伴う傷痕などの大きな肉体的・精神的苦痛を訴えています。また、自分が属さない性やジェンダーのカテゴリーを押し付けられたと感じる当事者も少なくありません。

それらの処置が不可逆的であり、身体的不可侵性と自律性に影響を与えることを考慮すれば、そのような

医学的に不必要かつ本人の希望しない手術や治療は禁止されるべきです。インターセックスの子どもとその家族には、他の当事者によるものも含め、十分なカウンセリングとサポートが与えられるべきです。

差別

インターセックス当事者たちは、インターセックスであることを知られた場合、あるいはジェンダー規範に適合していないと認識された場合、差別や虐待を受けることが珍しくありません。

差別禁止法は多くの場合インターセックスに対する差別を禁じていないため、当事者たちは医療サービス、教育、公共サービス、雇用、スポーツなど、さまざまな場面で差別的な扱いを受けやすい状態にあります。

インターセックス当事者に特有の健康上のニーズを考慮し、適切な医療を提供し、身体的不可侵性と健康に関する当事者の自律性と権利を尊重するためには、訓練、知識、理解が必要ですが、医療専門家たちがそれらを欠いている場合もあります。インターセックス当事者の中には、出生証明書や公的書類に記された性別の表記を訂正したい、あるいは訂正する必要がある場合、障壁や差別に直面する人もいます。

インターセックスのアスリートに対しては、直面する特有の障壁があります。インターセックスの女性アスリートがインターセックスの特徴を理由にスポーツ競技から失格になった例は複数あります。しかし、インターセックスであること自体が必ずしもパフォーマンスの向上につながるわけではなく、身長や筋肉の発達など、パフォーマンスに影響を与える他の身体的差異については、そのような精査や制限の対象とはなっていません。

保護および救済措置

インターセックス当事者たちは、権利の侵害から守られるべきです。そういった侵害が起きた場合は、必ず調査を行い、加害者とされる者を起訴する必要

があります。被害者には、是正と補償を含む効果的な救済が与えられるべきです。

また、インターセックス当事者の権利に影響を与える法律や政策の構築において、当事者たちの意見を参考にする必要があります。

実際の取り組み

2013年、オーストラリアは性差別に関連する法律を改正し、性的指向、ジェンダー・アイデンティティ、インターセックスの状態に基づく差別を禁じました。これは、インターセックスを独立した差別禁止事由として盛り込んだ初めての法律です。また、オーストラリア議会は、インターセックス当事者たちに対する強制的な不妊手術について公式に調査を実施しました。

2015年、マルタはジェンダー・アイデンティティ、性表現、性的特徴に関する法令を採択しました。これは、未成年者の性的特徴に対してインフォームド・コンセントなしに手術や治療を行うことを禁止する初めての法律です。また、性的特徴を理由とした差別も禁止しています。

行動基準

各国家：

- インターセックスの子どもの性的特徴に対する医学的に不必要な手術や処置を禁止し、当事者の身体的不可侵性を守り自律性を尊重する。
- インターセックス当事者とその家族が、他の当事者からのものも含めて、適切なカウンセリングとサポートを受けられるようにする。
- 教育、医療、雇用、スポーツ、公共サービスへのアクセスなどにおいて、インターセックスの特徴や状態に基づく差別を禁止し、関連する差別禁止法案を通じてそのような差別の問題に取り組む。
- インターセックス当事者たちに対する人権侵害を調査し、加害者とされる者を起訴し、被害者が是正と補償を含む効果的な救済を受けられるようにする。

- 国の人権機関は、インターセックス当事者の人権状況を調査、観察する。
- インターセックス当事者が出生証明書や公的書類に記された性別を修正できるよう、手続きを規定する法律を制定する。
- インターセックス当事者の自律性、身体的不可侵性、性的特徴を尊重した上で、インターセックスの子どもたちとその親に適切なアドバイスとケアを提供できるよう、医療従事者を対象にインターセックス当事者の健康上のニーズと人権に関する研修を行う。
- 司法、入国管理局、警察、医療、教育、その他の役人や職員に対し、インターセックス当事者を尊重し、平等に扱えるよう訓練する。
- 当事者らの権利に影響を与える調査、法律、政策の構築において、インターセックス当事者や組織の意見を反映させる。

メディア：

- 新聞、テレビやラジオなどで、インターセックス当事者たちの声を取り上げる。
- インターセックスと人権問題について、客観的でバランスの取れた描写をする。
- インターセックス当事者たちの性的指向やジェンダー・アイデンティティを決めつけない。

あなたにもできることがあります：

- インターセックスの人々に対する差別や暴力を見かけたら、声を上げてください。
- インターセックスの人々も、様々な性的指向やジェンダー・アイデンティティを持ち得ることを忘れないでください。

国連ファクトシート 日本語版 謝辞:

「国連インターセックス・ファクトシート」アジア言語版翻訳プロジェクトは、インターセックス・アジアが主導し、MamaCashとOpen Society Foundationがスポンサーとなっています。

インターセックス・アジアは、日本のインターセックス・アクティビストとコミュニティからの情報提供、編集、翻訳サポートに感謝いたします。

UN Free & Equal Campaign とOHCHRの許可を得て、この翻訳プロジェクトを実現することができたことに感謝いたします。本文は英語を原文とする文書の日本語への非公式訳です。この翻訳は、該当国のインターセックス・アクティビストによって適宜校正、確認されたものです。

国連は、この非公式訳の精度について、いかなる責任も負いません。

Produced by:



Source:



Our Sponsors:



Allies:

